

中郷地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年11月8日（木）19：00～20：00
- 2 場所 中郷地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 28名
市出席者 4名（深澤市長、乾危機管理局長、安本地域振興局長、山本青谷町総合支所長）



4 テーマ 安全・安心のまちづくり

5 概要

（地元あいさつ）

近年、異常気象により県内、県外とも台風等による水害や土砂災害等、様々な災害が発生している。生命と財産を守ることは行政の課題であり、地域防災、減災を懇談会のテーマとした。実情や課題については後ほど説明させていただきたい。

（市長あいさつ）

近年、全国各地で多くの災害が発生しており、特に今年は鳥取市も7月豪雨、台風等で甚大な被害が発生した。被災された皆さまに改めてお見舞い申し上げたい。

鳥取市は、災害が発生する度に予算措置をし、災害復旧に努めており、9月議会でも関連予算を計上し、復旧に努めているところである。先の台風24号では、中郷地区にも多くの浸水被害が発生した。11月30日に招集予定の臨時議会で約10億円の復旧に係る予算を議決いただき、速やかに対応したいと考えている。

また、被害を最小限に抑えるためには、日頃からの備えが何よりも肝要である。こういった点について、皆さんと意見交換させていただけたらと思う。

中郷地区の取組みの説明

<テーマの背景>

中郷地区は、12集落のうち、8集落が30世帯未満で高齢化が進んでいる集落がある一方で栄町のような100世帯を超える新興住宅の集落もあります。

地震や台風などによる災害が発生している中、中郷地区として安全・安心なまちづくりのために、まずは、的確な防災情報を得る手段が必要だと感じています。また中郷地区公民館、中郷体育館を避難所として開設する場合の備蓄品等のあり方を含めた運営体制についてあらためて確認し、検討する必要があると考えています。

<地域の取組み>

防災無線が十分に届かないエリアがあり、地域の防災情報に格差があるように感じています。夏に実施された、屋外のデジタル防災行政無線の音達調査の結果等を踏まえた防災情報の格差解消が、早急に必要だと感じています。

地区としては、集落内の情報共有のため、音声告知専用端末機器の設置啓発・普及（中郷地区普及率29.5%（青谷町全体28.4%））に取り組んでおり、今後も進めていきたいと考えています。

②以前から避難所運営等の課題について考える必要があると感じており、10月23日に地区公民館で開催された小地域懇談会において、「災害と人権」をテーマに、市の防災コーディネーターを招き、避難所運営ゲーム（HUG）を体験しました。災害時の対応について、日頃から訓練等が必要なことを地区としてあらためて認識しました。

また指定避難所と位置付けられている中郷体育館は、日常的にスポーツ6団体が利用し、平成29年度は平均月35件・770人、年間9,260人の利用がある施設です。新耐震基準（昭和56年度）以降の昭和63年に建設された体育館で、平成28年度の鳥取県中部地震では大きな問題はありませんでしたが、震度5強を受けており、耐震や積雪に対する影響を懸念しています。

（地元）

中郷地区のほとんどの集落は急傾斜地と土砂災害警戒区域に指定されており、過去にも災害が発生している。住民の生命と財産を守ることは行政の最も重要な使命であり、そのために的確な防災情報を得る手段を確保する必要があると考えている。

防災行政無線のデジタル化に伴い、戸別受信機が撤去され、地域内情報の連絡ができなくなった。的確に情報を伝えるためには戸別受信機を基本とし、それを補完していく形にするのが良いと考えている。例えば、新しい移動系防災行政無線システムについて総務省消防局が緊急防災・減災事業債の対象としている。新しいシステムに乗り換えることは簡単ではないが、検討の余地はないだろうか。

(地元)

先日撤去された防災行政無線の戸別受信機は、水害等の災害時に有効であると考えている。戸別受信機の代わりに屋外拡声子局が設置されたがほとんど聞こえない状況である。また、音声告知専用端末機器は初期費用1万円、維持費がおよそ1,000円ということだが、数年後には補助制度が終わってしまう。先日の台風の際は、避難する時にはもう道路が浸水している状況であった。もう少し早く連絡できる体制をとっていただきたい。

(市長)

防災行政無線が、窓を閉め切った状態、気象状況によっては聞き取りにくいという意見をいただいている。0857-21-6100に電話をかけていただくと、放送内容を確認することができるため、活用していただけたらと思う。また、テレビの文字放送でもほぼ同時に情報を流している。

現在、コミュニティFMを活用し、防災情報を伝えていこうと考えている。新庁舎にはコミュニティFMのサテライトスタジオを設置し、災害発生時には24時間態勢で放送する。また、緊急時に自動起動し情報を伝達することが可能な防災ラジオを取り入れていくよう取り組みを進めているところである。

災害はどこにいる時に発生するかわからない。防災行政無線が聞き取りづらい状況もあるかと思うが、複数の情報伝達手段でしっかりと速やかに情報をお伝えしたいと考えているのでご理解いただきたい。

(危機管理局長)

今年の8月頃に防災行政無線の音量がどの程度出ているかを調査し、10月末にその結果がまとまった。国の基準では、500m離れた地点で60dbの音量があることが必要であるとしているところ、中郷地区では600m離れたところで約70dbの音量があることを確認できた。国の基準を下回る地域には戸別受信機を設置しているが、基準を上回っても屋内では聞こえづらいということもあるので、防災ラジオも活用していくような仕組みを考えていきたい。

(地元)

先の調査結果は屋外で測定したものだと思う。屋内、かつ雨が降っている時に調査していただきたい。

屋外拡声子局のすぐ近くに住んでいるが、放送がほとんど聞こえない。放送で内容を聞き取るのではなく、サイレンを鳴らし、それを合図にテレビをつける、ラジオをつけるといった行動につなげていくほうが良いのではと思っている。同じ町内会の中でも、戸別受信機の有無等により情報格差がある。音声告知専用端末機器はどうしても情報がやや遅れるので、第一に防災行政無線がしっかり聞こえるように検討していただきたい。

(市長)

屋外拡声子局のすぐ近くにいても聞こえないのは問題だと思う。確認させていただきたい。また、屋内にいるとき、雨が降っている時に聞こえるかどうか確認することも必要ではないかと思う。

サイレンを鳴らすというのは一つのご提案として承りたい。防災行政無線が鳴っていたら何か命に関わる事態であると認識していただき、情報を確認していただけたらと思う。

同じ集落でも、戸別受信機の有無等により情報格差が生じているのではないかという思いも我々は理解している。様々な災害の場面に対応できるよう、いろいろな伝達手段を確保していこうとしており、防災ラジオも有効な手段の一つと考えている。

(危機管理課補足)

屋外拡声子局が聞こえにくい状況がありましたら、速やかに該当箇所を点検し、正常な状態を確保したいので危機管理課までご連絡いただければと思います。また、勧告発令時にサイレンを鳴らすというご提案については、7月豪雨を教訓として、その後の対応から実践するよう取組みを開始しました。さらに、戸別受信機に代わる防災情報の伝達手段として、緊急時に自動起動し情報を伝達することが可能な防災ラジオを取り入れていくこととしています。

(地元)

高性能の屋外拡声子局を設置されたということだが、いつ運用されたのか。雨の日に窓を閉め切った状態の時に放送が聞こえたことがない。災害時の情報源は主にテレビやインターネットである。戸別受信機の全戸設置は経費がかさむため厳しいと思うが、屋外拡声子局のみでは不安である。何か別の方法を考える必要があるのではないか。

(危機管理局長)

防災行政無線は、基本的に生命に関わりのある危険が差し迫った時に放送することになっている。内容が聞き取りづらい場合でも、鳴っているということは危険が差し迫っている状態だと認識いただきたい。

中郷地区には、台風24号の時に避難勧告は出なかった。台風24号の時には、範囲を絞って青谷地区にしっかり届くように放送しているが、中郷地区には放送が聞こえなかった可能性がある。

行政は、防災行政無線で放送する際、テレビやラジオ、インターネットにも同時に情報を流すように運用している。複数の手段で情報を得る習慣をつけていただくことが重要ではないかと思う。

(地元)

先日の台風時に、中郷地区には防災行政無線が鳴らなかったように思う。

（青谷町総合支所長）

放送内容を市長と支所で協議した上で、支所から青谷町全体に放送を行っている。先日の台風時にも実際に放送は行ったが、聞こえなかったということはあるかもしれない。

（地元）

屋外拡声子局のすぐ近くでは鳴っていることはわかったが、外に出て聞き耳を立てても内容は聞き取れなかった。支所に電話し対応を問い合わせても、支所に自主避難してくださいという通り一遍の回答であった。避難路が水に浸かっており別の避難所を開設してもらおうよう要請しても対応いただけなかった。結局、住民に町内放送で集落の集会所に避難してもらおうよう呼びかけた。

（市長）

防災行政無線が鳴っていることはわかって、内容が聞き取れないというご意見をいただいた。緊急時には最大音量で鳴る設計にはなっているが、実際に放送が伝わっていないということであれば、音量等の点検をする必要があるかと思うので確認したい。

また、災害時の対応も良くなかったという点については、反省材料としてしっかり受け止めたい。

最近、以前とは異なり雨が急激な降り方をするようになっている。雨は事前におおよそ予想できるため、早めに避難していただけるようしっかり情報をお伝えしたい。

（危機管理課補足）

災害時には、住民の皆さんの避難行動を促すため、屋外拡声器のみで情報伝達をするのではなく、テレビ、ラジオ、ホームページ、あんしんトリピーメールなど複数の伝達手段を活用して情報を伝達するよう努めています。これらの情報を有効に活用するためには、どのような情報伝達の方法があるのかを住民の皆さんに知っていただき、防災行政無線のサイレン音が聞こえたら、テレビやラジオなどからも同様の情報が流れているということが浸透するように、防災講習会など様々な機会を捉えて啓発していくことで、情報の入手漏れなく避難行動を行うことができるよう取組んでいきたいと思えます。

（地元）

現在の防災行政無線は同報系防災行政無線である。最近、民間会社が移動系防災行政無線を利用し、屋外拡声子局、戸別受信機、コミュニティ放送の役割を持つシステムを作り、それを総務省消防局が認可し、緊急防災・減災事業債を充てて財政支援を行っていると聞いている。鳥取市は現在、合併特例債を使って事業を行っているが、この事業債を活用したら現行よりも安くなるため、一部システムを変更する等検討できないか。事業を開始しているため簡単には変更できないとは思いますが市の方針を聞きたい。

(市長)

まずは防災行政無線の屋外拡声子局を全市的に設置する方向で進めていきたい。そのうえで、様々な形で防災行政無線を補完し、情報の伝達に努めていきたい。その一つとして、コミュニティFMを全市的に届くように整備する計画を考えており、防災ラジオ設置の助成を行うことも検討している。

(地元)

どの財源を充てる予定か。

(市長)

緊急防災・減災事業債など、有利な財源を研究し、活用して進めていきたいと考えている。

(地元)

様々な情報伝達手段が増えているが、高齢者が一番利用するのは音声告知専用端末機ではないかと思っている。中郷地区の普及率は3割に満たないとのことだが、市は普及についてどうお考えか。

(市長)

普及率が3割ということで、まだ十分に行き渡っていない状況だと思う。

現在、コミュニティFMのサテライトスタジオを新庁舎に設置し、災害時には24時間態勢で情報発信をすることを考えている。防災ラジオは比較的安価、災害時に自動起動する、屋外にいても情報伝達が可能と優れた方法である。また、テレビの文字放送でも災害情報を流している。様々な手段を活用し、情報を確認してほしい。

(青谷町総合支所長)

防災行政無線のデジタル化に伴い、防災行政無線で行政放送、地域情報を流すことができなくなったが、昨年度から補助を開始した音声告知専用端末機器を利用し、支所から防災情報を流している。住民の負担金が必要なため任意加入となるが、防災情報、地域内情報の伝達について非常に有効な設備であるので、ぜひ活用いただきたいと思う。

(司会)

もう一つのテーマである、中郷体育館の耐震性、点検等について、市から回答いただきたい。

(市長)

昭和56年6月に新耐震基準が作られ、それ以降に建てられた建物は耐震性が十分ある施設となっている。中郷体育館は昭和63年に建築され、新耐震基準を満たしているため、耐

震性は十分ある施設なので、ご安心いただきたい。

平成28年度の鳥取県中部地震の直後にも中郷体育館の点検を行ったが、施設への被害は見られず、耐震性は十分確保されていると判断した。これからも引き続き定期点検を行っていきたいと思っているが、何か不具合等があれば随時ご一報いただければと思う。

(地元)

中郷体育館を利用しているが、カーテンが開閉できないため電気をつけて利用している。避難場所にもなるため、昼間は太陽の光が入った方が良いと思う。

(市長)

昼間に利用される場合は自然光を取り入れたほうが良いと思う。状況を確認したい。

(生涯学習・スポーツ課)

本市では、所管施設の多くで様々な修繕課題が生じていることから、施設の状態や利用状況、利用者へ与える危険性等を勘案し、年次的に対応を行っています。

中郷体育館のカーテンレールの不具合については、他の施設の修繕等も勘案した結果、現在は着手できていない状況です。

今後も以上の修繕方針に沿い年次的に対応を進めていきますので、利用者の皆さんにはご不便をおかけしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

(地元)

台風24号で、市道、農道等の被害が相当あったため、今年度中に復旧をお願いしたい。

(市長)

台風24号の災害復旧は、11月30日開催の臨時市議会にて関連予算を議決いただき、今年度から取組んでいきたいと考えている。

(市長あいさつ)

防災行政無線が聞こえないという話をいただいた。緊急時に役に立たないということにならないよう、音量調節等も含め、再確認させていただきたい。

行政の究極の使命は住民の皆さんの生命、財産を守ることだと思っている。特に近年、様々な災害が相次いで発生しているので、日頃からの備えをしっかりと行き、被害を最小限に食い止めるよう知恵をしっかりと絞っていききたい。これからも、皆さんと一緒に災害に強いまちづくりの実現に努めていきたい。